

原作:石牟礼道子  
苦海淨土  
わが水俣病  
1969



2019年

11月17日(日)

①昼の部 14:00-

【対談】 16:00- 最首悟 × おしたようこ

②夜の部 18:00-

ドーンセンター

1F パフォーマンススペース

前売:2000円 当日:2500円※①②入れ替え制

事情割:1000円※経済困難その他の事情のある方は応相談



# 一人芝居 天の魚(いを)

高度経済成長に沸き立つ1964(昭和39)年初秋の水俣。

東京五輪の喧騒もどこ吹く風、ひっそりと暮らしている江津之家を、あねさん(石牟礼道子)が訪ねる。

途絶えて久しい来客を前に爺さまは焼酎をあおり、わが半生とその胸中を語りだす。その姿を、生まれながらにして重い障害をもった孫の杏太郎少年が傍らに横たわって、じっと見つめている…。



## 川島宏知 [出演]

1946年 高知県生。砂田明に演劇を学んだ。砂田氏が1972年に水俣に移住してからは東京で舞台、映画、TVなど幅広く出演。2006年から

「天の魚」を継承、2018年2月には水俣で上演した。著書に『想憶のシンフォニー』(2017)共著に『水俣50年 ひろがる「水俣」の思い』(2007)がある。



## 石牟礼道子 [原作者]

1927年 熊本県生。水俣に取材し『苦海淨土 わが水俣病』(1969)を発表。水俣病を生きる人々の姿を描き、大きな衝撃を与えた。『天の魚』(1974)『椿の海の記』(1976)などの作品を次々に発表。創作活動は水俣病の告発に留まらず、小説、随筆、詩歌など生涯にわたり続いた。2018年2月10日、没。

## 【16:00 ~ 特別対談「天の魚の世界、終わらない水俣病」】

長年水俣に関わってきた「学者」と関西在住の「当事者」という立場から「天の魚」の世界、水俣病の現状と今後について語ります。チケットを持っている方は聴講いただけます。ぜひご参加ください。



## 最首悟 [いのち論]

1936年 福島県生。1976年に重度複合障害をもつ娘さんの誕生を機に、障害者への差別や偏見が未だに根深く残る社会に向けて発言を続けている。1977年、第一次不知火海学術総合調査団に参加、1981年より第二次不知火海学術調査団の団長。著書は『水俣の海底から』(1991)『星子がいる』(1998)など多数。



## おしたようこ [水俣病被害者]

1974年 兵庫県生。線維筋痛症友の会理事・関西支部長。不知火海沿岸地域に生まれ育った両親のもと、長年、関西で暮らす。幼少時より原因不明の頭痛、倦怠感に悩まされ、主治医の紹介で阪南中央病院を受診したところ「胎児性水俣病のひとつのタイプなのではないか」と診断される。共著に『水俣50年 ひろがる「水俣」の思い』(2007)がある。

会場:ドーンセンター (大阪府立男女共同参画・青少年センター)1Fパフォーマンススペース

〒540-0008大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター

■「天満橋」駅①出口東350m ■「大阪城北詰」駅②出口西550m ■「京阪東口」バス停すぐ

※ドーンセンターの駐車場は18時で閉鎖します。近隣の駐車場か公共交通機関をご利用ください。

日時: 2019年11月17日(日)①昼の部14:00【対談16:00】②夜の部18:00

料金: 前売 2000円 / 当日 2500円 / 事情割 1000円 ※全席自由席・①②入れ替え制

チケットのお求め

・オンライン <https://ten-no-iwo.100.jp/ticket/> ホームページからご購入いただけます⇒⇒⇒  
・電話予約 カンフェティチケットセンター0120-240-540(平日10:00~18:00)  
予約時にお伝えする払込票番号をお近くのセブンイレブンのレジまでお持ちください。



会場ボランティアへの  
参加とご寄付のお願い

●一人芝居「天の魚」大阪公演には多くの資金と労力が必要です。運営や準備、撤収にご協力いただける方は下記、問い合わせ先までご連絡ください。  
●ご寄付は郵便振替口座「00900-1-283233」加入者名「問学研究会」にご送金いただくかホームページ上で承ります。  
詳しくは<https://ten-no-iwo.100.jp/support/>をご覧ください。

お問い合わせ 「天の魚」関西企画 住所: 〒554-8799 大阪府大阪市此花区春日出北2-1-9此花郵便局留今関惇  
ホームページ:<https://ten-no-iwo.100.jp/> E-mail:kansai.tennoiwo@gmail.com TEL:070-5046-0549(今関)